



自立支援連絡協議会報告

全体会(地域課題の共有) 2月16日

各 WG から課題を出してもらい名古屋市自立支援協議会の課題整理表を作成しました。

今回事務局・各ワーキングの代表が集まり、各 WG から詳細を説明してもらい課題を共有しました。

【南区課題】

- ① グループホーム不足(条件に合うグループホームが見つからない)
- ② 移動支援や行動援護のヘルパーが見つからない。 ③ 相談支援の質の確保
- ④ 土日や祝日に日中活動を利用したくても、非定型がほぼ認められない。(地域活動支援施設の数が少ない)
- ⑤ 新規や緊急対応できる施設が見つからない。⑥ 土日や夕方など居宅介護が見つからない。
- ⑦ 訪問看護と居宅介護のヘルパーが同一時間帯に利用できない。⑧ 事業所の障害の理解や対応について
- ⑨ 基準該当生活介護について、介護度は高いが単価が安い。
- ⑩ 事業所の人材確保・人材育成(人材が集まらない、定着しないため、職員の質も上がらない)
- ⑪ 防災訓練に障がい児者の参加が少なく、避難所運営側、地域の方々の障がい理解がなかなか進まない。学区によって要援護者への関心度が違う。
- ⑫ 重度障害者入院時コミュニケーション支援の認知度の低さや対象者、支援者の範囲の限定のため利用しにくい。
- ⑬ 福祉と教育の連携(子どもたちの生活に関係機関で情報共有し、発達の保障をしていく。ケース検討を通して子ども達を捉える力を養う)
- ⑭ 支援者の人材育成(広い視野で当事者の生活を考えることができる人材の育成)
- ⑮ 障害の重度化から医療的ケアの必要な方が増えているが医療的ケアのできるヘルパーが少ない。
- ⑯ ところの健康への活動はあまり表面化されていない。
- ⑰ 地域の困り事について、考えを共有する機会が少なく課題の解決方法についての機会も少ない。
- ⑱ 退院や家庭からの自立を希望し、アパートを探す際に障がいを伝えることで入居が難しくなることがある(特に精神障がい)



今年度は課題共有を行ってきたので、来年度は課題解決に向けて区でできることを考えていける仕組み作りをしていきたいと思っています。

相談支援連絡会 2月9日

2月は講師に社会福祉法人親愛の里名古屋支援事業所エリアマネージャーの青木邦子様をお呼びし、「精神障がいの特性と対応の仕方」についての研修会を行いました。

3月は今年度最後と言う事で、振り返りを含め来年度の方向性を決めていきました。計画相談は3月の更新が多いが事業所によってばらつきがあることが分かりました。来年度は偶数月にケース検討会を行っていく事になりました。

児童の生活を考える会 2月21日

2月はケース検討会を行いました。普段ケース検討の機会もなかなか持てない方々も他事業所と意見交換をし、とてもいい機会だったとご意見いただきました。また今後も続けていけたらと思っています

さらっと付き合う

共感力・説明力が大切

メリットとデメリットを伝える。どう解決したらよいと思っている？

「自分ができることはなにか。とりあえずそれをやってみようか。」

自己決定は本人 先回りはしない。提案はしない。尊重する。

支援者が自分を責めない。細く長く支援することが大切。



<対応のポイント>

- ① 幻覚・妄想には否定も肯定もしない中立的立場！
- ② 症状を無理に「理解」しようとするな！
- ③ 症状が悪化したときの言動を冷静に受け止める 医療との連携。
相手の言葉を言語化し、その部分を解決してことが大切
場を読むことが苦手。曖昧な言葉は分からない。一つ一つ指示 手順書
指示系統の一本化

*職域を超えない。仕事の相談は就労センターへなど。 情報量とネットワークが大切で問われる。

*行動が伴わないことを責めない。ハードルを下げる提案をする。

*発病によりエネルギータンクが小さくなる。疲れやすい、

*何を優先して組み立てるかが大切。

*基礎情報を丁寧に読み取る。得た情報をどう読み取るか。

*それぞれの能力は別々。部分で低下する。どこが欠けているかをみる。

*突然話が変わる場合は修正が必要

<面談のポイント>

・最初に時間を伝える。20分だから何時何分までと伝える。

・終わりの5分くらいで終了することは伝える。

・延長しない。何はなそうとしていたの→別日を設定。緊急時は除く。

・時計を見えるように話す。

・同じ話の時はまとめる、今日はこの話でよかったか確認。

・満足感を与える。 日常会話～内容～結 まとめる。

・やってよかったと思っていることを伝える。感想などを伝える

・本人の言葉を言い換ええない・記録も書き換ええない。(本人の独特の症状など伝わらなくなってしまう。)



ささえあいまちづくり事業報告

2月18日

毎年恒例のささえあいまちづくり事業ですが、今年は車いすプロダンサーの奈佐誠司さんをお呼びしました。圧巻のパフォーマンスと感動的な講演会でした。



ご自身の体験のもと夢を持ち続けることの大切さを講演通して伝えて頂きました。最後は会場のお客様と一緒に踊りました。

今回はオープニングアクトで南区「いりゃあせ南都さん」、緑区「神」・「みどりっち」の鳴子踊りの方々もお呼びしとてもとても華やかな会場となりました。

来年も遊びに来てくださいね！！



☆新規事業所 紹介コーナー☆

(合同会社)白石クラブ

重症心身障がい児や筋ジストロフィーなどの難病の人工呼吸器や気管切開をお持ちの方でもご利用できる児童発達支援事業と放課後等デイサービスが南区弥次卫町に4月からオープンします。

リハビリに特化しており、寝返りや座位訓練、歩行訓練などに加え筋肉の緊張により拘縮や短縮、疲労や痛みなどを起こしてしまった関節や筋肉に対して、超音波治療器などの物理療法を用いながらのマッサージとストレッチを行っています。また呼吸機能が弱った場合やそうならないために排痰機器などを用いた呼吸訓練を提供しています。

また、「保育所等訪問支援事業」にて学校や保育所に訪問し嚥下訓練や摂食介助についてのアドバイスなどの活動も行っていきます。

現在募集されているのは、未就学の方の児童発達支援事業で毎週水曜日と第1・第3土曜日の午前10時から午後14時までです。

住所：南区弥次卫町1-26-1

連絡先：080-3669-1035

